

# 中川正春の永田町かわら版

2004/12/15 第227号

民主党三重2区総支部連合会 衆議院議員中川正春事務所

※配信不要の方はお手数ですがご連絡ください。

三重／〒513-0013鈴鹿市国分町453-7 TEL：0593-73-3933／FAX：0593-74-3088／E-mail：g03063@shugin.go.jp

東京／〒100-8981永田町2-2-1 衆議院第一議員会館428 TEL：03-3508-7128／FAX：03-3508-3428

## ○北朝鮮は、ただのバカの集りか、それとも、これは、巧妙に仕掛けられた外交戦略なのか？

外務省が持ち帰った横田めぐみさんの骨がニセモノだということが分かりました。ご両親の気持ちを思うと、私も居たたまれなく、心底腹が立ちます。

北朝鮮当局は、なぜ、ニセモノを渡したのか。

最初からこのように「ばれる」と分かっていたのなら、日本の国民世論を意図的に刺激して怒らせているわけです。拉致問題の交渉を破綻させようとする意図が働いていることになります。もし、世間で言うように、金正日が北朝鮮の経済問題を克服するために、日朝国交正常化を早く実現することによって経済援助を得たいと考えているとするなら、政権内部にそれをじゃまする力がはたらいていることになります。

もし、ばれる事がないだろうとタカをくくってやったとすれば、北朝鮮内部の指導者レベルはその程度の稚拙な発想で物事を進めていることになって、このような国が核兵器を開発して持っていると考え、ある意味、空恐ろしくなります。

ここで少し、北朝鮮内部の問題を考えて見ましょう。3つの組織が、かかわっています。

一つは、北朝鮮にも、ソン・イルホ副局長を筆頭に、対外交渉の窓口となる外務省があります。次に、拉致と言う「犯行」に直接携わった35号室という労働党の情報組織。第三に、その調査を特別委員会のもとにやる日本の警察にあたる国家安全保衛部です。小泉訪朝で金正日が拉致を認めただけで、それは、部下が自分の知らない間に勝手にやったと言うのです。この場合、部下とは、党の35号室になります。これを警察にあたる保衛部が調べて、その結果は、昔のことだから全体の真相はつかめない。皆、死んだことは突き止められたから、本人たちの病院カルテや骨を証拠として持ち帰って欲しいと言われて、帰ってきたということです。ところが、前の時点では、死亡カルテが改ざんされたニセモノだったと判明し、今回は、骨までニセモノだったわけです。

これまで、何回も交渉するたびに、「日本の交渉団がもてあそばれている」と思うのは、私だけではありません。

日本が馬鹿にされて、腹が立つ。外務省の情報収集能力、交渉能力不足にも腹が立つ。ここは、当然のことですが、私は、ここでもう一度見極めて置かなければならない事があると思うのです。それは、いったい北朝鮮の中で何が起きているのかということです。組織の統制が取れない混乱なのか、核軍備をそろえるための時間稼ぎなのか、金正日の真意と軍部や周辺の権力との関係はどうなのか。こうした認識をはっきりさせた上で、次の手を考える。これが大事だと思っています。

## ○政権をとるためには、足元のかためから。民主党の必死で戦う新人たちに選挙の極意を伝授。

最近の民主党は、新人の研修に力を入れています。現役で選挙に強そうな20人のなかで、私も選ばれて、「チューター」に指名されました。当選一期目の議員と、前回落選した経験者も含めて現在選挙区で準備をしている候補予定者にマンツーマンで選挙の極意を伝授しようということです。私の担当は、中部。三重はもちろん、石川、岐阜、静岡など、民主党にとって難しい選挙区で、皆、頑張っています。

私のモットーを「汗と涙の10ヶ条」にして、先日、一泊どまりで行った研修会に披露しました。個別訪問を中心に、まわってはミニ懇談会、まわってはミニ、から始まって、この「かわら版」を皆さんに読んでもらうことなど、「選挙にウルトラC」などない。日常の積み重ねが大事だと話しました。そして、最後に自分の身近な人に「ありがとう。」と感謝の気持ちを忘れないこと。中には、目に涙を浮かべて拍手してくれた人々がいました。皆、孤独な戦いに一所懸命なのです。